



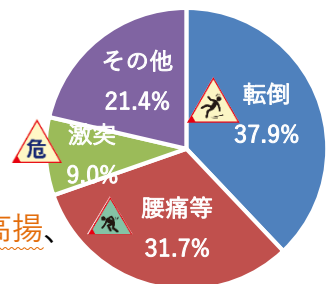
保育・児童施設の皆様へ 労働災害を防止しましょう！

都内の社会福祉施設では、くじく、ぎっくり腰になる「動作の反動・無理な動作」やつまずき、滑りにより転ぶ「転倒」と呼ばれる災害が多く発生しています（全災害の約7割を占めます）。特に子供が動き回り、子供用の小さな机や椅子がある保育・児童施設では、保育士が前かがみ姿勢を取りがち、子供が動くため安定した姿勢での作業ができない、小休止が取りづらい等の特徴があるため、次のような災害が発生しやすくなります。

- 注意散漫となり段差や濡れた床等による、つまずき、滑りにより転ぶ。
- 前かがみ等の不自然な姿勢により、筋をちがえる、ぎっくり腰になる。
- 子供注視しながら移動するため、自身が机等に激突する。

労働災害防止には、危険個所などの「見える化」をはじめとする安全意識の高揚、雇い入れ時の安全衛生教育が重要となります。

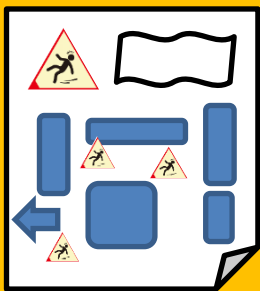
さあ、職場に合った効果的な労働災害防止対策をしましょう！



保育・児童施設の
災害発生状況 (H29 東京)



転倒防止対策のポイント



転倒⑤

園内の段差のある個所や滑りやすい場所などをまとめ、転倒危険マップを作成し、周知しよう！



転倒④

作業を行う際は、接地面積が広く滑りにくい履物を！



転倒①

大きな荷物を抱えて移動するなど、足元が見えない状態での階段の移動は危険！

転倒②

通路、階段、出口に物を置かない！



転倒③

水がこぼれるなど床が濡れたらすぐに拭きとる！

災害事例



- ケース1 食器のトレイを両手に持っており、椅子につまずき転倒。休業6か月。(60歳女性)
- ケース2 押入れの布団を出す際に床に置いた布団に乗り上げ転倒。休業3か月。(57歳女性)



～トップが打ち出す方針 みんなで共有 生み出す安全・安心～

東京労働局・労働基準監督署



腰痛等防止対策のポイント

作業姿勢・動作が最も重要！

片足を少し前に出し膝を曲げる！

十分に腰を下ろす！

背を伸ばし、腰を捻らず！

対象に体を近づけ作業！

膝を伸ばすように立つ！



腰ポ⑤



腰ポ①

床上で行う赤ちゃん体操やおむつ交換は前かがみにならないよう作業台の上や、両足を開いて座った姿勢で行う！

腰ポ②

抱える、おぶう、肩車、突然の追突され、ぶら下がられる、これらは腰背部に負担大！

腰ポ④

事務作業は、床に座ったり、幼児用の小さな机・椅子を使ったりせず、成人用の机・椅子を使いましょう！



腰ポ③

トイレ介助においては、保育士が深くしゃがむのをためらわないようにトイレや汚物槽を清潔に保とう！

災害事例

ケース1 シャガんでいるとき、後ろから子供に乗りかかられ腰痛を発症。休業3か月。(25歳女性)

ケース2 ベビーカーへの子供の抱え上げを長期間続けたため腰痛を発症。休業1か月。(47歳女性)



危 激突防止対策のポイント

激ポ⑤

視線が下に行きがちに！

頭上は要注意！

激ポ④

急がない！

急ぐと注意が散漫に！

激ポ③

足元が見えない状態での移動は注意しよう！

激ポ①

曲がり角などは子供が飛び出しってくる可能性が！

危険な箇所にはカーブミラー！

停止線！目立つマーカー！

危険の「見える化」を進めよう！

激ポ②

物は置く場所を決め、床を整理整頓しよう！

災害事例

ケース1 滑り台で園児に気を取られ、臀部を強打。尾骨骨折。休業1か月。(53歳女性)

ケース2 園児のけんかの仲裁に駆け出した際に遊具にぶつかり、骨折。休業1か月。(53歳女性)

上で使用している「見える化ステッカー」



& 「マーカー」



の活用をぜひ！

東京労働局では、「Safe Work TOKYO 2018」を展開しており、小売業・社会福祉施設・飲食店等の労働災害の防止に関する様々な情報を掲載しています。

https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/news_topics/topics/2017/9_00002.html

